

資料 2 : 「日本語教育の参照枠」二次報告 (案) - 日本語能力評価の考え方について

4. 「日本語教育の参照枠」における多様な評価の在り方と事例について (掲載事例の案)

パフォーマンス評価の例 (p.8)

- 国際交流基金 (2016) では、JF 日本語教育スタンダードに準拠したロールプレイテスト (A1 ~C1) を公開している。

テスター用ガイドライン

ロールカード	JF Can-do	タスク運動の手かりとして引き出す役割	設定台詞 (T: テスター, S: 学習者)
あなたは日本の自産で辛い場所をしています。店の人に、買いたい野菜や果物の名前、数を言ってください。	八百屋や市場などで買い場をするとき、買いたい野菜や果物などの名前と値段を店員に伝えることができる。 <店や公共機関でやりとりをする>	<input type="checkbox"/> 荷がほしいか <input type="checkbox"/> いくつほしいか  <input type="checkbox"/> どの野菜か <input type="checkbox"/> (特定の食材) は辛いか、辛いかな * 「どこがどのように辛いか」などは不要。「おなかが痛いです」「所持金が悪いです」など短い言葉で OK	T: いらっしゃいませ。 S: すみません、りんごを一つください。 T: はい、りんごを一つですな。 どうもありがとうございます。
あなたは職場で、体の調子が悪くなりました。日本人の同僚に、そのことを伝えてください。	体の調子が悪いとき、「おなかが悪いです」「所持金が悪いです」など、短い簡単な言葉で、ホストファミリーに伝えることができる。 <情報交換する>	<input type="checkbox"/> 「どこがどのように辛いか」などは不要。「おなか痛いです」「所持金が悪いです」など短い言葉で OK	T: どうしたんですか。 S: お持病が隠れています。 T: お腹が痛いですか。 S: はい。 T: 大丈夫ですか。一緒に病院に行きましょう。
あなたは旅行で、荷物を運んでいますが、とても重いです。近くに日本人の同僚が来ました。手伝いを頼んでください。	重いものの移動などの助けが必要なとき、「助けてください」「手伝ってください」など、短い簡単な言葉で頼んだり、ゆっくりはつきりと言えれば、頼まれたことに対応したりすることができます。 <共同作業中のやりとり>	<input type="checkbox"/> 「助けてください」「手伝ってください」など、条件を伝える <input type="checkbox"/> お礼のことば	T: S さん、大丈夫ですか。 S: T さん、すみません。手伝ってください。 T: いいですよ。どこに運ばれますか。2階ですか。 S: はい、そうです。あらかたこうござります。

**判定の段階**

◎ 全く筋道が読める	△ 全く筋道は読めない	X
◎ 全く筋道を選択して、筋道に答えられる	△ ゆっくりはつきりと言えれば、全く筋道を選択して、筋道に答えられる	X ゆっくりはつきりと言えれば、全く筋道を選択して、筋道に答えられない

**A1 のテスター行動**

- 日本語で筋道やりとりができるかをみるために、ゆっくり質問したりする。(筋道は硬くない)
- 会話はテスターが開始し、終了する。
- 学習者が単語を使って単語を構った時は、テスターは「～のことですか」と日本語で確認する。
- コミュニケーションができるかどうかを見るため、学習者が理解できない場合は、言い換え、繰り返す。

A1

©国際交流基金

国際交流基金 (2017) 『JF 日本語教育スタンダード準拠ロールプレイテストテスター用マニュアル』  
 テスター用ガイドライン A1 [https://jfstandard.jp/pdf/roleplay/JFS\\_roleplaytest\\_all\\_20170131.pdf](https://jfstandard.jp/pdf/roleplay/JFS_roleplaytest_all_20170131.pdf)  
 (令和 3 年 1 月 25 日閲覧)

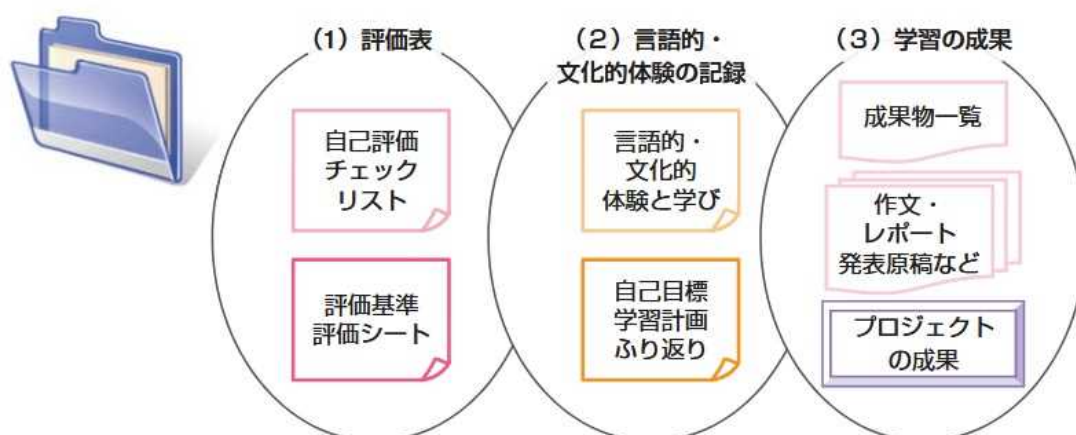
## ポートフォリオ評価の例 (p.14)

- ・国際交流基金の JF 日本語教育スタンダードでは、ポートフォリオを評価の中心の一つとして位置づけ、世界各地でそれぞれの現場独自のポートフォリオを作成し、評価活動を行っている。

## 1.5.2 ポートフォリオの構成

ポートフォリオを評価のツールとして教育現場で活用するためには、学習者が自分の学習過程を記録し保存しやすい構成や形式で提供し、ふり返りやすくすることが大切です。そこで、JF スタンダードでは、ポートフォリオを、次のような「評価表」「言語的・文化的体験の記録」「学習の成果」の3つの構成要素で考えます<sup>6</sup>。

図 1-8 JF スタンダードのポートフォリオの構成



<sup>6</sup> JF スタンダードでは、CEFR の理念を教育現場で実現するための道具であるヨーロッパ言語ポートフォリオ (European Language Portfolio) を参考にし、この3つの要素を考えました。ヨーロッパ言語ポートフォリオについては、『JF 日本語教育スタンダード試行版』(2009 : pp.68-91) をご参照ください。